



まもり・そだて・のばす

～日野町新・農業推進プラン～



令和 7 年 11 月

日野町

「まもり・そだて・のばす ～日野町新・農業推進プラン～」

コンセプト：日野町の農地と地域農業を「まもる」。

日野町の農業の担い手と特長ある作物を「そだてる」。

日野町の農業で収益と個性を「のばす」。

1. 基本目標

令和2年度から6年度に取り組んだ「日野町がんばる地域プラン」のレガシー（遺産）を将来につないでいくため、担い手の育成と確保を進め、農家の個性と地域資源を生かした農業生産と収益アップ、守るべき農地の維持を図る。

2. 地域の現状・課題

令和6年度策定の「地域計画」では、計画内農地290haのうち、10年後の耕作者（後継者・担い手）が特定できている農地は90haであり、残り200haについては耕作者が特定できておらず、近い将来不耕作地・耕作放棄地となる可能性が高い。また、町内の担い手農家についても、現状以上に取組面積を拡大することは困難であるほか、町農林振興公社も人員が不足しているなど、農業の担い手不足が深刻化している。

特産品振興については、若手農業者を中心に新規作目に取り組むなどの動きもあるが、付加価値を付けた高収益作物の産地づくりが急務である。

【がんばる地域プラン（R2～R6）を進めた中での具体的な成果・課題等】

- ・農家委員、農業委員を主体に、関係機関（町・県・JA・農林振興公社等）が支援しながらPT（プロジェクトチーム）や全体連絡会で協議決定し、取り組みを前に進めていく体制が定着したが、推進体制をスリム化して効率的に事業実施していく必要がある。

- ・各集落において守っていく農地が明確になるとともに、担い手や中核的農業者などの中心経営体 19 名に 115ha（全体の 30％）の農地が集積されてきた。
- ・町内の若手農業者らによる「奥ひの青パパイヤ研究会」が主体的な活動になり、青パパイヤの栽培者が町内 20 名に拡大し、特性や栽培方法が把握できるとともに、特別栽培の取組や加工品開発の取組が進展した。
- ・今後の日野町特産物の振興方向として、金持テラスひの「まめなか屋」やふるさと納税返礼品での取組などを進めるとともに、地元堆肥を活用した循環型農業の推進と併せて取り組んでいくことが明確になった。
- ・堆肥の生産、散布等の供給体制が整い、農家の要望を踏まえて、目標の 50ha の堆肥散布が行われた。農家からは堆肥散布事業の継続要望が強く、それに対応していくためには、マニアスプレッダーの増車が必要となる。

3. プランの基本方針

- （１）将来を見据えた担い手づくり ～担い手・新規就農者確保の取組～
- （２）日野町農林振興公社の機能強化 ～人員確保と機械導入による体制整備～
- （３）循環型農業で土づくり・特産物づくり ～地元産畜産堆肥活用による地力増進、特産物の生産量・販売額アップ～
- （４）地域の農地をみんなで守る ～集落共同活動による集落機能の維持～

4. プランが目指す姿（目標）※目標年度：R12 年度（事業年度：R7～R11）

（１）将来を見据えた担い手づくり

- ・認定農業者：5 名（R6：5 名）
- ・農業研修生：2 名（R6：0 名）
- ・集落営農組織数：2 組織（R6：2 組織）
- ・農地集積率：60％（R6：23.1％）

（２）日野町農林振興公社の機能強化

- ・事務局人数：４名（R6：３名）
- ・オペレーター人数：６名（R6：６名）
- ・水稻・そば作業受託面積：50ha（R6：50ha）

（３）循環型農業で土づくり・特産物づくり

- ・散布目標面積：50ha
- ・特産野菜等作付面積：6.5ha（R6：4.4ha）
- ・堆肥活用米作付面積：40ha（R6：40.5ha）
- ・特産作物・加工品販売額（まめなか屋）：450万円（R6：296万円）

（４）地域の農地をみんなで守る

- ・中山間地域等直接支払 参加集落数：33 協定（R6：33 協定）
- ・中山間地域等直接支払 協定ネットワーク計画数：5
- ・多面的機能支払制度集落協定数：29 協定（R6：28 協定）

5、プランの概要

（１）将来を見据えた担い手づくり

担い手不在の地域農業において大きな役割を担う日野町農林振興公社の職員採用による体制強化並びに、新たに農業研修生（地域おこし協力隊員）を受け入れ、地元農家による技術指導や販売活動などの研修を行うことにより、高齢化が進む日野町の農業の担い手育成・産地づくりを図る。

また、「地域計画」に定められた「守るべき農地」を将来にわたって守っていくため、農地集積・集約化を推進していくほか、スマート農業等、新しい農業経営に取り組む担い手農家を支援する。

【具体的な内容】

- ・ **地域おこし協力隊員（農業研修生）の募集**：農業の担い手確保・育成のため、農業研修生としての地域おこし協力隊員を募集する。採用後は町内生産者の下で栽培技術研修や作物の販売・販路拡大等の研修を行い、期間終了後は、認定新規就農者として独立することや、町内の農業法人への就職等、地域農業の担い手として活動してもらうことを目指す。

地域おこし協力隊員報償金および活動費補助（単町）

※受入・サポート体制の整備及び具体的な研修方法、研修終了後のビジョン等について町・県・農業者で検討を行う。

- ・ **農地利用最適化活動**：「地域計画」（R6 策定）のブラッシュアップを行い、将来誰がどのように農地を利用していくのか、担い手と小規模農家等の共助体制の構築、並びに地域間協力の推進を図る。

（2）日野町農林振興公社の機能強化

担い手不在の地域農業において大きな役割を果たしている、日野町農林振興公社の職員採用による人員体制及び機能強化、並びに機械導入を行うなどの体制づくりを行う。

【具体的な内容】 ※事業内容・金額は令和 7 年度のもの

- ・ **町農林振興公社運営費補助金**：同公社について、事務局長候補職員および地域おこし協力隊員を採用し、作業受託やそば栽培、堆肥散布など、農家からのさまざまな要望に即応するための人員体制強化を行う。

事務局長および職員人件費（一部）：1,576 千円（単町）

- ① 機械維持管理：1,500 千円（単町）
- ② イノシシ対策：200 千円（単町）
- ③ 特定地域づくり事業負担金補助：450 千円（単町）
- ④ 地域おこし協力隊員報償金および活動費補助：4,000 千円（交付税措置有）
- ⑤ （新規）事務職員（事務局長候補）人件費：3,143 千円（単町）
- ⑥ （新規）マニアスプレッダー導入補助：町農林振興公社が行う畜産堆肥散布用マニアスプレッダー導入に対し補助を行い、散布体制の充実化を図る。
マニアスプレッダーリース料の 2/3 を補助（単町）

（３）循環型農業で土づくり・特産物づくり

長年の米づくりによる地力低下の改善のため、町内産の畜産堆肥を地域内循環する体制を整備して地力増進を図り、米および高収益作物等の品質の向上と販売強化に取り組む。

【具体的な内容】 ※事業内容・金額は令和 7 年度のもの

- ・ **畜産堆肥活用推進事業**：町内産畜産堆肥の運搬・散布を実施した農家に補助を行い、循環型農業を推進(財源：愛と元気の日野町ふるさと基金)。

①(拡充)堆肥運搬補助金：事業費 3,500 円(1t あたり)×79%×120t=332 千円

※受益者負担：800 円(1t あたり)

②(拡充)堆肥散布補助金：事業費 9,500 円(10a あたり 1t)×79%×50ha=3,753 千円

※受益者負担：2,200 円(1t あたり)

- ・ **特産品目・チャレンジ品目振興**

日野町の「特産品」および「チャレンジ品目」について、R7 年度から新たに指定し、振興を図る。

【特産品目：白ねぎ、ピーマン、青パパイヤ、スイートコーン、しいたけ】

【チャレンジ品目：エゴマ、エビスグサ、とうがらし】

畜産堆肥活用推進事業で堆肥散布した圃場で育った上記品目については、「循環型農産物」として付加価値を付け、「まめなか屋」内特設コーナーで販売するほか、ふるさと納税返礼品としても活用する。「まめなか屋」以外での販売強化策についても検討する。

特用林産物（原木しいたけ）についても、各生産者と連携し、販売促進及び加工品づくりについて支援を検討する。

- ・ **販売野菜等種苗費補助金**：販売した野菜・花きの種子代の 1/2、苗代の 1/3 を補助(1,034 千円)（単町）

- ・ **がんばる米づくり農家支援事業補助金**：2,000 円(10a あたり)×90ha=1,800 千円（単町）

- ・ **鈴原糯種籾生産・買取価格補填補助金**：283 千円 ※鈴原糯については、貴重な優良系統・個体の確保のため、原種・原原種生産が行われている。
- ・ **そば種子補助金**：1,000 円(10a あたり)×33ha=330 千円（単町）
- ・ **農産物特産品化支援事業補助金**：青パパイヤ生産振興のため、試験栽培の実施に伴う栽培技術向上等について支援を行う(150 千円)
- ・ **特産物栽培講習会の開催**：白ねぎ・ピーマン・青パパイヤ等、作物の品質向上と栽培農家の増を目指して栽培講習会を開催する（単町）
- ・ **農業基礎講座の開催**：刈払い機・管理機等の安全な使用方法等について、農業初心者をはじめ、町内農家に広く呼び掛けて開催する。（単町）

（４）地域の農地をみんなで守る

集落協定による農地保全活動および若手農業者等による農作業サポート活動の支援等により、耕作放棄地の拡大防止など、地域農業を維持する。

【具体的な内容】※事業内容・金額は令和 7 年度のもの

- ・ **中山間地域等直接支払**：適切な農業生産活動が継続的に行われるよう、集落協定で行う農地管理・保全活動等について交付金を支払う。令和 7 年度からの第 6 期対策では、協定のネットワーク化や統合など、多様な組織等の参画による体制づくりの促進が位置付けられている。交付金：47,844 千円（国事業）
- ・ **多面的機能支払**：農地の多面的機能を支える活動や地域資源（農地・水路・農道等）の質的向上を図る活動等について交付金を支払う。交付金：14,794 千円（国事業）
- ・ **「アグリサポートひの」事業**：町内の若手農業者による農地保全活動チーム「アグリサポートひの」の活動をバックアップ（安全講習、作業受付等）するほか、農業バイトマッチングアプリ「デイワーク」の PR 等、アグリサポート事業以外の農作業受委託の支援も行う。（単町）
- ・ **プラン推進リーフレット「あぐり便利帳」の発行**：「アグリサポート」募集や各種補助事業、講習会等、プラン推進のためのリーフレットを発行し、町内全戸に配布する。

5. プランの推進体制（別紙）

6. 目標達成ロードマップ（別紙）

日野町新農業推進プラン推進体制

日野町新農業プラン推進連絡会

〈会長〉

〈事務局長〉 産業振興課長 〈全体進捗確認〉 課長補佐

農地利用最適化・
担い手育成、確保
プロジェクトチーム

チーム長

副チーム長(役場)

副チーム長(役場)

【農家委員】
・担い手農家
・地域計画に位置付け
られている農家
・指導農業士

【農業委員会】
・農業委員
・農地利用最適化
推進委員

【町農林振興公社】

【JA:営農センター】

【担い手育成機構】

【鳥取県】
・農林業振興課(農業
振興室)
・日野農業改良普及所

循環農業推進・
特産物生産振興
プロジェクトチーム

チーム長

副チーム長(役場)

副チーム長(役場)

【農家委員】
・畜産農家
・堆肥生産者
・特産物生産者
・担い手農家
・指導農業士

【農業委員会】
・農業委員

【町農林振興公社】

【JA:営農センター】

【町特産品ブランド
化実行委員会】

【鳥取県】
・日野農業改良普及所
・農林業振興課(農業振
興室、林業普及担当)

日野町新・農業推進プラン 目標達成ロードマップ

[illegible]